

平成 26 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

夢をかたちに！ (Scale up your Dream, and Build up your Future.)

生徒が自らの進路に夢や憧れを抱き、高い志を持って、その実現に向けて必要な力を身に付けるとともに、社会に積極的に参画し、貢献できる人材を育成する学校をめざします。

【生徒に育みたい力】

- 1 高校三年間の様々な体験的学習を通して、発見・驚き・感動を自信に繋げ、将来への「夢」を実現していく力。
- 2 社会の発展に寄与するための高い「志」を持ち、自らを律し、社会人として自立する力。[自立]
- 3 英語教育をはじめとする様々な学習活動を通して、異文化を理解し、身の周りから世界中までの様々な人々と共生できる力。[共生]
- 4 清掃やボランティア活動を通して、基本的人権を尊重し社会に貢献できる力。[友愛]

2 中期的目標

1. 多様な教育ニーズに応える教育内容の充実

- (1) 新学習指導要領を踏まえ、基礎的・基本的な学力の定着をめざすとともに、これまでの実績を踏まえ、より生徒のニーズに適合した教育内容の充実を図る。

ア、新しいカリキュラムでは、英・数・国の教科において、チャレンジ・スタンダード・ベーシックの3段階の講座を設定し全員に選択履修させる。

イ、苦手科目の克服、得意科目の伸展を図り、どのエリアに関わらず自分に合ったクラスで実力を伸ばすことができるようにする。

ウ、生徒・保護者のニーズの把握に努め、より高度な大学進学に対応した教育内容の充実を図る。

- (2) 「わかる授業、充実した授業」をめざして、授業改善に取り組む。

ア、習熟度別授業、選択科目の充実を行い「わかる授業、充実した授業」を展開する。また、基礎学力向上のための補習・講習の充実を図る。

イ、エリアに合わせた体験授業（看護師一日体験・保育実習）を取り入れるなど、高大連携や出前授業などの外部人材講師の派遣も活用する。

ウ、電子黒板付き短焦点プロジェクターの導入により、さらなるICTを活用した授業改善を研究する。

エ、生徒による授業評価（アンケート）のさらなる活用

※授業アンケートにおいて、授業への教材（ICT等）活用を行った教員の授業への満足度（平成24年度73.9%、平成25年度82.5%）について、引き続きさらなる向上をめざす。

※学校教育自己診断アンケートにおいて、プレゼンテーション能力が十分に身についたとする生徒の肯定的回答の向上をめざす。（平成25年度49.9%から今年度70%）

※学校教育自己診断アンケートにおいて、エリア・科目選択に関する授業への満足度（平成24年度74.7%、平成25年度74.6%）について、引き続きさらなる向上をめざす。

※国公立大学・難関私立大学への進学者数の前年度比20%引き上げを目標にする。

※進路希望実現満足度70%

- (3) 府立学校再編整備方針をうけて

ア、平成27年度対象校として、普通科専門コース設置校に再編整備されることに決定。（H25.9.20）

イ、校内プロジェクトチーム（以下PT）で検討を重ねてきた「学校概要・教育課程（専門コースを含む）」に基づき、より生徒のニーズに適合した教育内容の充実を図る。

ウ、もっと「入りたい学校」へ、入試志願者倍率の向上をめざす。（平成25年度前期3.04倍、後期1.18倍から今年度前期3.50倍、後期1.25倍）

2. 夢と志を持つ生徒の育成とキャリア教育、モラル教育の推進、人権教育の指導計画の確立

- (1) 将来への「夢」やあこがれを抱き、社会人として自立し、社会の発展に寄与するための高い「志」を持つ態度を身につける。

ア、「総合的な学習の時間」とLHR等を活用して、志学とキャリア教育、人権教育の指導計画を確立する。

イ、分野別進路説明会を開催するとともに、「進路適性検査」や「自分未来BOOK」などを活用し、自己の進路実現を図る。

ウ、社会保険労務士や司法書士などの外部講師を招聘し、社会人としての心得など、身近な問題に触れ意識付けを図る。

- (2) 「いじめ防止基本方針」の実施とモラル教育の推進

ア、「いじめ防止基本方針」を策定（H26.1）し、「いじめ坊防止対策委員会」を立ち上げ、年間計画に沿って実施する。

イ、基本的生活習慣の確立、挨拶の励行、他者を思いやる心の育成、善悪の判断ができる意志の育成等を図る。

- (3) 最近、急速に普及しているスマートホンに係る「ネットと人権侵害」についての取り組みを推進する。

ア、スマホの急激な普及によって起こってきたインターネット上の諸問題に対して、引き続き、各学年の人権HRでその問題に対する取り組みを実施する。

イ、保護者への啓蒙活動も文書等により引き続き行うとともに、保護者・教職員がさらに連携を深め、生徒一人ひとりを大切に人権教育の一層の充実を図る。

※生徒向け学校教育自己診断における「自分の将来の進路や生き方について」に関する満足度（平成24年度71.4%、平成25年度74.4%）について、引き続きさらなる向上をめざす。

※生徒向け学校教育自己診断における「命の大切さや社会のルールを学ぶ機会があった」に関する満足度（平成24年度65.7%、平成25年度65.9%）について、引き続きさらなる向上をめざす。

3. 地域との連携を密にし、地域の社会資源を活用した教育活動を展開

- (1) 学校支援ボランティア等地域人材の活用など地域が学校を支援する取り組みを推進する。

ア、日根野駅前商業施設やホテルと連携し、部活動の発表の場を多く設けることで、生徒の自信に繋げる。

- (2) 各種のボランティア活動への参加や計画立案を促し、生徒の社会的貢献を図ると同時に、その活動の成果を対外的にアピールしていく。

ア、保健部や保健委員会を中心とした地域の清掃活動等の取り組みを推進する。

イ、生徒会を中心としたボランティア活動の取り組みを推進する。

- (3) 学校協議会や学校保健委員会の提言を教育活動に取り入れるとともに学校の特色ある取り組みの紹介

ア、学校の特色ある取り組みや「生徒の活動の頑張り」を顕彰するなど、本校のPR活動をホームページ等で積極的に行う。

※保護者向け学校教育自己診断における「教育活動」に対する満足度（平成24年度77.5%、平成25年度72.7%）について、引き続きさらなる向上をめざす。

4. 生徒理解の促進と相談体制の充実

- (1) 生徒支援委員会の設置に伴い、スクールカウンセラーとの効果的な連携を図る。

ア、新しく導入する「生徒支援カード」をもとに、支援を要する生徒について支援計画を作成し、情報収集と個別の支援内容の検討を行う。

- (2) 生徒がより相談しやすくするため、生徒の相談窓口の複数化と充実を行う。

ア、体罰やセクシャルハラスメントに係る相談についても相談窓口や相談方法を周知する。

※生徒向け学校教育自己診断の教育相談に関する項目における満足度（平成24年度58.7%、平成25年度57.3%）について、引き続きさらなる向上をめざす。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成26年12月実施分]	学校協議会からの意見
【教育内容・学習指導等】 ①エリア科目選択に関する授業満足度(74.7%/目標75%) ②国公立大学・難関私大進学者数(29名/目標30名)3/27現在 ③進路希望実現満足度(68%/目標70%) ④ICT活用授業満足度(83.7%/目標83%) ⑤プレゼンテーション能力向上満足度(49.5%/目標70%) 【総合的学習・人権教育・キャリア教育・進路指導等】 ①進路決定に関する満足度(92.1%/目標64%)	【第1回 6/27】 ・進路指導は、本人に早く目的意識を持たせるため1年生から始め、特に秋までの半年を大切にほしい。 ・教科書選定は、従前通りいろいろな価値観の目を通して進めてほしい。 ・海外へと開かれた視野を身に付けるとともに、地元を愛生きていく心を大切に育んでほしい。 ・もっと進学校としての具体的なカラーを打ち出してほしい。 ・もっと地元（特に中学校・中学生）に、日根野高校の教育方針を情報発信してほしい。 【第2回 12/10】 ・学校情報の公開姿勢をさらに強化してほしい。

<p>②自分の将来の進路や生き方に関する満足度 (74.7%/目標 75%)</p> <p>③命の大切さや社会のルールを学ぶ機会に関する満足度 (61.3%/目標 66%)</p> <p>④保護者の教育活動に関する満足度 (85.4%/目標 73%)</p> <p>【学校行事・地域連携した教育活動等】</p> <p>①学校行事に関する満足度 (79.8%/目標 69%)</p> <p>②部活動加入率 (55.5%/目標 60%)</p> <p>③ボランティア参加者数 (20名/目標 16名)</p> <p>④教育情報の提供努力に関する満足度 (83.9%/目標 82%)</p> <p>【生徒理解・相談体制等】</p> <p>①教育相談に関する満足度 (60.2%/目標 58%)</p>	<p>・現実の必要性に鑑み、英語だけではなく中国語教育も重要視してほしい。</p> <p>・来春からの専門コース制移行に備え、生徒のコース選択に制限がかからぬよう十分な準備をしてほしい。</p> <p>【第3回 1/30】</p> <p>・学校教育自己診断や授業アンケートなどの分析の視点として、「同一学年の経年変化」「成績上位・中位・下位別の分析」等、いくつかの視点を持つようにはどうか。</p> <p>・クラブ加入率 70%くらいの目標を持ってほしい。クラブ活動は、生徒の生活習慣・倫理観の質的向上に直結するとともに、成果指標にも反映されていくと考える。そのために、従来の体育系クラブ・文化系クラブの魅力を高めるだけでなく、来年度から始まる専門コースの内容に繋がるようなクラブ開設も検討したらどうか。</p> <p>・泉佐野市との連携を経て、看護メディカル専門コースを卒業する生徒達が修得するものを（准看護師資格ではないとすれば、それに代わる）分かりやすいカタチで示してほしい。</p> <p>・一斉メール配信等、学校情報の発信機能をさらに強化してほしい。</p>
---	--

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 多様な教育ニーズに応える教育内容の充実	<p>(1) 新学習指導要領を踏まえ、基礎的・基本的な学力の定着をめざすとともに、これまでの実績を踏まえ、より生徒のニーズに適合した教育内容の充実</p> <p>(2) 「わかる授業、充実した授業」をめざした、授業改善への取り組み。</p> <p>(3) 府立学校再編整備方針を受けて専門コース制に</p>	<p>(1) ア、新カリでは、英・数・国の教科において、チャレンジ・スタンダード・ベーシックの3段階の講座を設定し全員に選択履修させ、苦手科目の克服、得意科目の伸展を図る。</p> <p>イ、国公立受験希望者を対象に、早い段階から学習方法や心構え等のガイダンスの機会を多く持ちセンター受験希望者を増やす。</p> <p>ウ、H24年度から導入した、教育産業による学力生活実態調査を引き続き行い、入学時から卒業に至るまで「生徒の伸び率」を客観的なデータに基づき、丁寧な指導を行う。</p> <p>(2) ア、習熟度別授業、選択科目の充実を行い「わかる授業、充実した授業」を展開する。</p> <p>イ、体験授業を多く取り入れ、高大連携や出前授業など外部人材講師の派遣を活用する。</p> <p>ウ、電子黒板付きの短焦点プロジェクターを活用した授業改善を研究する。</p> <p>エ、授業評価アンケートのさらなる活用</p> <p>(3) イ、「学校概要・教育課程（専門コースを含む）」に基づき、より生徒のニーズに適合した教育内容の充実を図る。</p> <p>ウ、もっと入りたい学校への魅力づくり。</p>	<p>(1) ア・学校教育自己診断におけるエリア・科目選択に関する授業満足度 (H24:74.7%、H25:74.6%) を引き続き、更なる向上をめざす。</p> <p>イ・国公立大学・難関私立大学への進学者数の前年度比 20%引き上げを目標にする。</p> <p>ウ・適性検査や学部学科説明会、面接指導等を行い、家庭学習時間の二極化を是正する。</p> <p>(2) エ・授業アンケートにおいて授業での ICT 活用を行った教員の授業への満足度 (平成 24 年度 73.9%、平成 25 年度 82.5%) を継続的に向上させる。生徒のプレゼンテーション能力向上満足度アップ。(平成 25 年度 49.9%、今年度 70%) 進路希望実現満足度 70%</p> <p>(3) イ・公立高校進学フェア等、積極的に PR 活動し、入試志願倍率を向上 (今年度前期 3.5%、後期 1.25%へ)</p>	<p>(1) ア、エリア・科目選択は 3 年間ほぼ横ばいである。人数制限等の影響もあり、カリキュラム編成からの検討が必要。(○)</p> <p>イ、29 名/目標 30 名。</p> <p>ウ、平均家庭学習時間は、1 年生 61 分・2 年生 42 分程度。依然バラつきが大きく、平均 2 時間に押上げるためには、校内での自習・講習インフラと機会を設ける具体策が必要。(△)</p> <p>(2) エ、ICT 活用授業は全教員に浸透しつつあり、満足度は着実に上がっている。引続き若手教員による ICT 活用授業研修を継続。(○)</p> <p>プレゼンテーションルームが未整備であることもあり改善なし。ただし、学年独自にコンテストを開いた 2 年生は 60%を超える満足度。(△)</p> <p>(3) イ、前期 3.40%。後期 1.34%。学習塾回り等、学校説明活動の成果(◎)</p>
2 夢と志を持つ生徒の育成とキャリア教育の推進、人権教育の指導計画の確立	<p>(1) 将来への「夢」やあこがれを抱き、社会人として自立し、社会の発展に寄与するための高い「志」を持つ態度の育成。</p> <p>(2) 「いじめ防止基本方針」の実施とモラル教育の推進</p> <p>(3) 最近、急速に普及しているスマートフォンに係る「ネットと人権侵害」についての取り組みを推進。</p>	<p>(1) ア、「総合的な学習の時間」と LHR 等を活用して志学とキャリア教育、人権教育の指導計画を確立する。</p> <p>イ、分野別進路説明会を開催するとともに、「進路適性検査」や「自分未来 BOOK」などを活用し、自己の進路実現を図る。</p> <p>ウ、社会保険労務士や司法書士などの外部講師を招聘し、社会人としての心得など、身近な問題に触れ意識付けを図る。</p> <p>(2) ア、「いじめ防止基本方針」を策定 (H26.1) し、「いじめ坊防止対策委員会」を立ち上げ、年間計画に沿って実施する。</p> <p>イ、基本的生活習慣の確立、挨拶励行、他者を思いやる心の育成、善悪の判断ができる意志の育成。</p> <p>(3) ア、インターネット上の諸問題 (ツイッターへの書き込み) の事例を多く取り上げ、問題意識をもたせながら指導する。引き続き、各学年人権 HR でその問題に対する取り組みを実施。</p>	<p>(1) ア・生徒向け学校教育自己診断における進路決定に関する満足度 (H24 : 62.8%、H25:63.8%)</p> <p>イ・生徒向け学校教育自己診断における「自分の将来の進路や生き方について」に関する満足度 (H24:71.4%、H25:74.4%) を引き続きさらなる向上をめざす。</p> <p>(2) ア・生徒向け学校教育自己診断における「命の大切さや社会のルールを学ぶ機会があった」に関する満足度 (H24:65.7%、H25:65.9%)</p> <p>(3) ア・保護者向け学校教育自己診断における教育活動に関する満足度 (H24:77.5%、H25:72.7%) を引き続きさらなる向上をめざす。</p>	<p>(1) ア、全部門で、ガイダンスに倍近い時間をかけた結果、92.1%まで上げられた。(◎)</p> <p>イ、進路決定プロセスは丁寧であったが、決定内容の満足度については結果 74.7%。体験的機会を増やす仕組みをつくり満足度の向上を狙う。(△)</p> <p>(2) ア、学習材料としてスマホの使い方講座を主体に展開したが、命の大切さや社会のルールを学ぶ機会 74.7%で目標未達成。生徒のみならず、教員側の人権フィールドワーク等、計画全体の精度向上を狙う。(△)</p> <p>(3) ア、学校行事に絡ませ数度の学校説明会を開催し続けた結果、85.4%の満足度。引続き保護者説明会の丁寧な継続を推進する。(◎)</p>
3 地域との連携を密にし、地域の社会資源を活用した教育活動を展開	<p>(1) 学校支援ボランティア等地域人材の活用など地域が学校を支援する取り組み</p> <p>(2) 各種のボランティア活動への参加や計画立案を促し、生徒の社会的貢献を図ると同時に、その活動の成果を対外的にアピール</p> <p>(3) 学校協議会や学校保健委員会の提言を教育活動に取り入れ、学校の特色ある取り組みの紹介</p>	<p>(1) ア、日根野駅前商業施設やホテルと連携し、部活動の発表の場を多く設けることで、生徒の自信に繋げる。</p> <p>イ、吹奏楽部の日根野駅前商業施設や近隣の小学校・大学への訪問演奏など、地域交流が図られる様、さらなる情報発信を進める。</p> <p>ウ、茶道部は、地域のステーションホテルと連携し、茶道を通して国際交流をするなどさらなる情報発信の充実を図っていく。</p> <p>エ、女子バレー部による日根野杯は、地域の中学校 3 2 校を集めトーナメント方式で大会の運営・審判を生徒自ら行うことで、地域からの期待に応えていく。</p> <p>オ、理科の授業で近隣の京都大学原子炉実験所と高大連携を図る。</p> <p>(2) ア、保健委員会を中心に地域清掃活動を行う等ボランティア活動の意識を醸成する。</p> <p>イ、海外ボランティアを経験した大学生のプレゼンを聴講し、座談会で意見交換するなどの新たな取り組みも進めていく。</p> <p>ウ、福祉の授業で近隣の施設と連携を図る。</p> <p>エ、保育の授業で近隣の保育所と連携を図る。</p> <p>(3) ア、学校協議会の提言を受けて、情報発信の重要性が共有されたので、さらなる取り組みを進めていく。</p> <p>イ、学校の特色ある取り組みを紹介する PR 活動をホームページ等で積極的に行う。</p>	<p>(1) ア～オ・生徒向け学校教育自己診断結果における学校行事に対する満足度 (H24:67.4%、H25:68.7%) を引き続きさらなる向上をめざす。</p> <p>部活動加入率前年度比 10%増加 (H24 : 54.6%、H25:63.2%) をめざす。</p> <p>(2) ア・地域の清掃活動の取り組みを全体に広げ、回数や参加人数を増やしていく。</p> <p>・ボランティア参加率前年度比 10%増加 (H25:16 人)</p> <p>(3) ア・ホームページの充実を図り、頻繁に更新し情報発信の充実を図る。＜教育情報についての提供努力 (H24:70.8% → H25:81.5%)＞を引き続きさらなる向上をめざす。</p>	<p>(1) ア～オ、学校行事に絡ませ数度の生徒説明会を実施し続けた結果、79.8%の満足度。引続き丁寧な生徒説明会と生徒の自主的な活動を推進する。(◎)</p> <p>部活動加入率 55.5%に低下。熱意ある若い指導教諭の必要性。特に、男子でサッカー・バスケット。1 年生の加入が伸び悩んでいる。4-7 月の勧誘活動計画に工夫が必要。(△)</p> <p>(2) ア、男女問わず、延べ 20 名の生徒が 1 回以上、清掃活動や校外活動中心にボランティアに参加。引続き、総合学習等で社会貢献意識を高め、参加の輪を広げていく。(◎)</p> <p>(3) ア、学校行事・クラブ活動など生徒主体の情報発信に努めるとともに、中学生・地域への学校情報発信も強化したことで教育情報の提供満足度 83.9%で目標達成。全校的なメール一斉送信システム導入により更なる向上を検討中。(○)</p>

<p>4 生徒理解の促進と相談体制の充実</p>	<p>(1) 生徒支援委員会の設置に伴い、スクールカウンセラーとの効果的な連携を図る。 (2) 生徒がより相談しやすくするため、生徒の相談窓口の複数化と充実を行う。</p>	<p>(1) ア、新しく導入する「生活支援カード」をもとに、支援を要する生徒について支援計画を作成し、情報収集と個別の支援内容の検討を行う。 (2) ア、体罰やセクシャルハラスメントに係わる相談についても相談窓口や相談方法などを周知する。</p>	<p>(2) ア・生徒向け学校教育自己診断の教育相談に関する項目における満足度（平成 25 年度 57.3%）について引き続き向上させる。</p>	<p>(2) ア、主担教員を中心に、相談室の教師常駐など全校的な教育相談機会を増やし、満足度 60.2% を達成。また、校内研修を積極的に開いたり、通信誌を発行する等、教員の相談意識を高めた。ホワイトボード教育相談やピアサポート等の本格導入など合わせ、検討中。(○)</p>
------------------------------	--	--	---	---